宮ノ陣ビオトープ新聞

発行
くるめハイトラスト株式会社
久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番地
〒839－0805　TEL0942-27-7515
協力 株式会社エコプラン研究所

宮ノ陣学びのビオトープから生き物や季節の情報をお伝えし、豊かな久留米市の将来へのライフスタイルを提案する新聞。

第　13　号
（2025 8 月）
宮ノ陣学びのビオトープ
2016 年 9 月創刊　不定期発行

ホタル講座を再開！

宮ノ陣学びのビオトープでは、池内に生息できる生き物がくらせる環境を整えるために、様々なテーマで学習や実践活動を開催しています。新型コロナ感染症の対策として二〇二〇年から二〇二四年まで市民参加型の講座の開催を見合わせていましたが、今年度より再開することになりました。

再開第一弾は、久留米市内でも多く見られる「ホタル」をテーマにした講話とビオトープ池の保全体験と見学が行われました。

専門家を講師に招いたホタルに関する講話

日本各地でホタルを保全する取組が行われており、正確な団体数は把握されていませんが、北は北海道から南は沖縄まで全都道府県に存在すると言われています。保全団体の性格も、法律（自然再生推進法）に基づくもの、地域住民が主体となったもの、地域の非営利活動法人やボランティア団体、自治体や教育機関など多種多様です。ホタルが舞う光景は季節の風物詩として親しまれ、ホタルの保全活動を進めることで、地域全体で環境問題に取り組み、美しい自然を次世代に引き継ぐことができるため、地域のシンボル活動として広がりました。久留米市は筑後川や耳納連山などの豊かな自然に恵まれていますが、きれいな水質と自然環境を必要とするホタルのくらしや生息地について子ども達が学んだり、そのような自然環境に触れたりすることで、環境学習にもなると考え、ホタルをテーマにした市民講座を企画しました。

二〇二五年六月七日土曜日、公募により集まった親子が、宮ノ陣クリーンセンターに集まりました。当日のプログラムは、当初、ホタルのくらしについてのお話とビオトープのホタル水路の見学と守るための活動体験を予定していましたが、降雨予報により、体験活動は休止し、ビオトープ池に生息する生き物の解説が行われました。

前半のホタルのくらしについてのお話は、「全国ホタル研究会」というホタルに関する生態、増殖の研究、生息環境の調査保全、愛護活動の情報交換、啓発及び水辺環境の保全、水環境の浄化等を通じ、自然保護活動に寄与することを目的とし、一九六八年に発足した団体の事務局を務めるエコプラン研究所の研究員によりスライドを使って、ホタルの生態についての説明や保全するためのヒントが示されました。特に、ホタルを守ろうして、別の場所で捕獲したものを放流することは、遺伝子の組成に重篤な影響を与えるなど、善かれと思って行ったことが、実は良くないことであることも明らかにされました。

ビオトープ池の生き物を解説

後半のビオトープ池の生き物の解説は、当日の講座直前に捕獲していたものをケースに入れ、ケースに入った個体を見せながら、それぞれの特徴やくらしについて説明されました。宮ノ陣学びのビオトープのシンボル的な魚類であるカワバタモロコ、ツチフキ、モツゴ、ミナミメダカは無事に確認できました。一方で、観賞用として品種改良されたヒメダカが増えていることも確認でき、原種との交雑が進むことが大きな懸念です。

ツチフキ

表　確認された主な水生生物

魚	カワバタモロコ
	ツチフキ
	モツゴ
	ミナミメダカ
	ヒメダカ（飼育品種）
底生動物	ミナミヌマエビ
	ヤゴ（マユタテアカネ）
	ヤゴ（シオカラトンボ）
	ヒメゲンゴロウ
	ヒメミズカマキリ
	ミズカマキリ
	ヒメガムシ
	キイロヒラタガムシ
	アメンボ
	ヒメアメンボ
	カワニナ
	シジミ属
	フロリダマミズヨコエビ
カエル	ヌマガエル

みやのじんビオトープこども新聞

みやのじんビオトープは、水、土、緑などいろいろな環境に生きものがくらせるようになるためにつくられ、人が生きものについて学ぶばしょです。この「みやのじんビオトープこども新聞」は生きものやきせつのこと、イベントや学習会のことなどをお伝えします。

宮ノ陣学びのビオトープ 生き物図鑑

「ゲンジボタル」ってどんないきもの？

「ゲンジボタル」はみやのじん学びのビオトープにはくらしていませんが、今回の講座のテーマになりましたので、紹介します。

ゲンジボタル

大きさやかたちの特徴 ゲンジボタルのおとなの体の長さは、1.5～3.0 センチで、メスの方がオスよりも体が大きいことが多いです。体全体は黒色で、頭と羽の間の胸は淡い赤色をしています。この赤い部分の真ん中に黒い十字の模様があることが大きな特徴です。

すんでいる場所 ゲンジボタルの幼虫は、カワニナなどのエサがくらしていて、水がきれいな清流や小川にくらします。この時、水はゆるやかに流れていることが大切です。おとなになったゲンジボタルは、水の流れがある水辺の近くでくらします。明るい時間は木の葉っぱや草の裏で休んでいます。

食べもの 幼虫は、水の中でくらしているカワニナをエサにしています。おとなになったゲンジボタルは、草についた水滴をなめるくらいでエサは食べません。

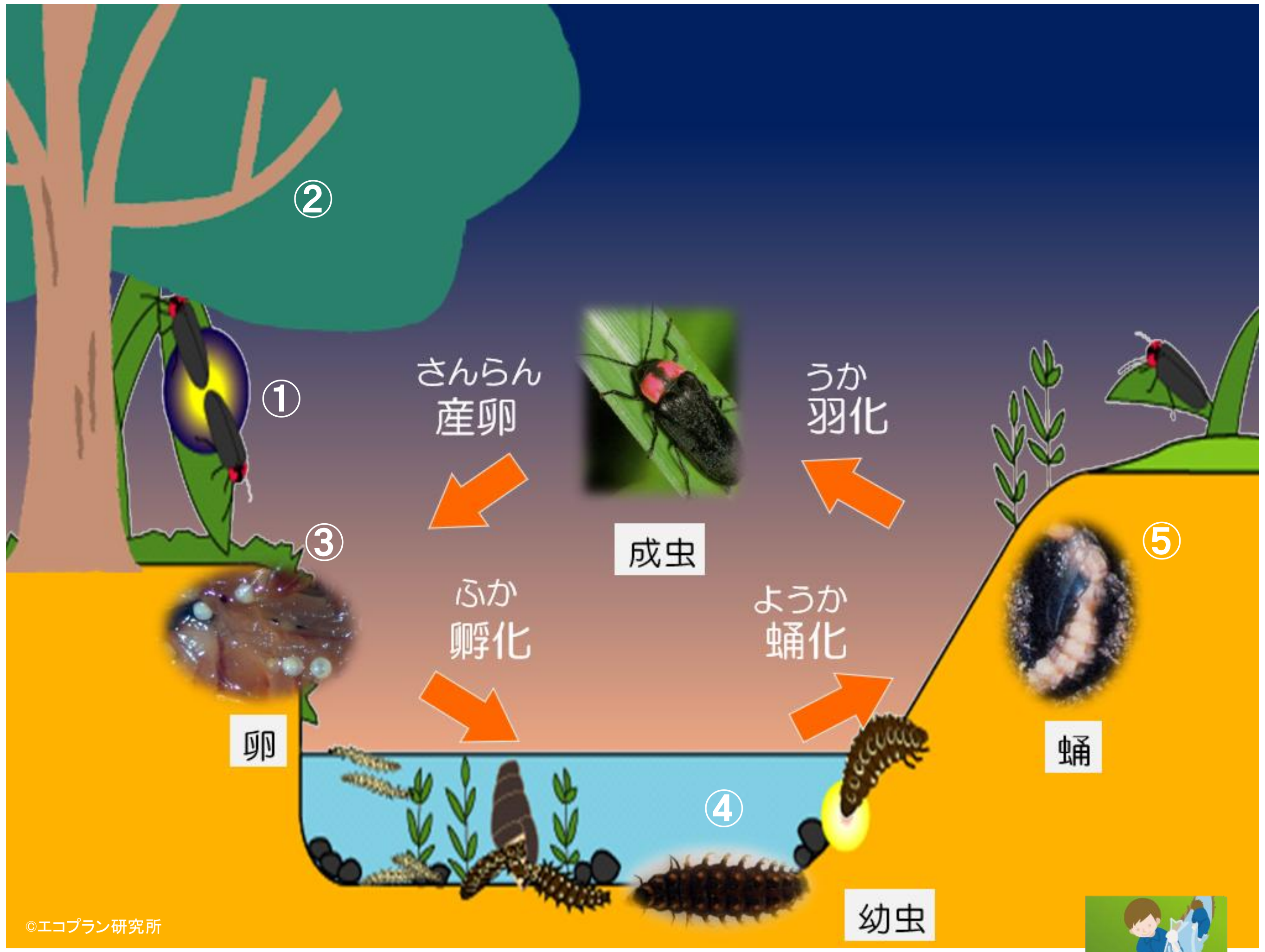
ゲンジボタルを守るために ゲンジホタルが一生を通してくらせる自然環境があることが必要ですが、そのためには、大切に守るための人による取組が必要です。具体的には、ホタルがくらす場所の草刈り、幼虫がくらす水路のごみや泥をとりのぞくこと。また、自動車や建物などの照明などによってゲンジホタルの夜の居場所が明るくならないようにすることなどがあります。詳しくは、右のページを見てください。

みやのじんビオトープこども新聞

ゲンジボタルがくらしつづけられるためには？

こんな場所

① オスとメスがコミュニケーションできる暗い場所
② お昼の時間帯、おとなのホタルがかくれられる木かげ
③ 卵を産みつけられる水辺の近くのコケや草
④ 幼虫のエサになるカワニナがくらせる水が流れる場所
⑤ 幼虫からさなぎになるためにもぐれる水辺の近くの土



場所だけでなく、私たち人間がゲンジボタルのために行うこともあるよ！

私たちの行動

⑥ ゲンジボタルがくらす場所を大切に守る
⑦ 水の中にすんでいる幼虫が、大雨がふった時でも流されないように
※最近の大雨は、気候変動により発生することが増えてきました。家や学校で省エネをするなど環境にやさしい生活をすることで、気候変動をおさえよう！

⑧ 身近な生き物や自然について学ぶ
※ペットで飼っていた生き物を山や川など自然の中に放流することで、もともとくらしていた生き物がくらしづらくなることもあります。ペットは最後まで責任を持って飼いましょう！